日刊 動労千葉

81,12,26

No. 931

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

一年間をふり返って

三月ジエット闘争が全国に大きな共感を呼びおこす

新小岩支部執行委員長　松崎　靖

この一年間、激動の八〇年代を象徴するかのように、情勢は目まぐるしく揺れ動き、多くのことがありましたが、自民党鈴木内閣は発足以来今日までの間、その反動性をさらけ出し、特に「行革に政治生命をかける」として、「軍拡」「福祉切り捨て」法案を「仲裁」を人質に一部野党？が協力して採決をするなど、極めて異常な事態がありました。

職場にも赤字を理由として、「国鉄経営改善計画」による、合理化の具体的な提案がなされ、その内容は国鉄労働者だけでなく、勤労大衆に対する公共性をかなぐり捨てた攻撃でありますが、これらの攻撃に対して有効な反撃の闘いを組織できない大きな弱点は、労戦「統一」が右の側から仕掛けられ、労働組合がその本質を見失っていることは、八一春闘の経過を見ていけばはっきりとしてきます。

このような情勢のなかで、本年三月労農連帯の旗を高く掲げて、組織の総力をあげジェット闘争を闘い抜き全国に大きな共感を呼び起こし、支援連帯の輪が大きく拡がっておりますが、この闘いのなかで動労「本部」反動分子のスト破り、そして権力に労働者を売り渡すという、彼等の反動的な本質が明らかにされ、動労大改革に向けて更に前進する展望が開けてきた年であったと言えます。

※　※　※　